

やませみ 通信



(やませみは興津川の清流のシンボルです)

<http://www.okitsu-yamasemi.net/>

この木の年齢はいくつかな？ 年輪を数えたら 55 歳だ！



森の生きものや草花の話に興味津々!!



NO. 42

令和2年3月

〈令和元年度の活動〉

- 4月 市民の森づくり（植樹）
- 6月 総会と講演
- 7月 「市民の森」下草刈り
- 8月 興津川の生物観察会
- 9月 興津川クリーン作戦
- 11月 ハヶ岳・美し森視察
森林探検隊

目次

- 1 ハヶ岳 美し森を視察
興津川保全市民会議視察研修
- 3 「森林探検隊」に参加して
・参加者感想特集
- 5 東京から市民会議の活動
に参加して
- 7 興津川クリーン作戦
- 8 深海魚「ミズウオ」と
海洋ごみ 総会講演
- 9 第2回興津川水系流域
委員会報告
- 11 令和2年7月1日より
「レジ袋有料化」
風呂敷の活用を!!

再生紙及びベジタブルインクを
使用しています。

興津川保全市民会議 事務局員 西野 真理恵

ハヶ岳美し森

日本百名山の一つでもあるハヶ岳は、南北約 30 kmに広がる個性豊かな山々からなり、多種多様な動植物を見ることができます。

今回は比較的なだらかな登山ルートを選び、環境省自然公園指導員 伏見勝氏の案内のもとハヶ岳の森を視察しました。

まずは、赤岳の東側に延びる尾根上にある小高い山「美し森」を登ります。ふもとにある駐車場から 15 分程で登ることのできる山ですが、ハヶ岳連峰を間近で見ることができ、南アルプスの山々も望むことができました。フォッサマグナの話も、大変興味深いものでした。

ハヶ岳の森の中をトレッキング

美し森の山頂から、いよいよハヶ岳の森の中をトレッキングしていきます。

この頃、晴れ間のあった空が急に曇り出し雨がぱらつき始めました。

雨具を用意すると晴れ間が現れ、と思うと、また空が曇り始めて雨がぱらつきの繰り返し。しかしこの様なこころ変わる天気を楽しむことも、登山の醍醐味です。

宮沢賢治の「風の又三郎」とハヶ岳

時折吹く強い風の音に驚きながらも、その轟きにどこか幻想的なものを感じ歩いていると、伏見氏が宮沢賢治の『風の又三郎』の中に、ここハヶ岳を舞台にした記述があると教えてくださいました。

様々な山の様子

ハヶ岳は1つのルートの中でも、様々な山の顔を見ることができます。マツの茂る森に美しい苔の森、力強さを感じる岸壁が続く道・・・と、眼前に広がる景色が変わるので私自身も疲れを感じずにトレッキングを楽しむことができました。



小滝で一休み

気温7度の中、小滝で各々昼食を取り後半のトレッキング開始です。



ハヶ岳の動植物

ハヶ岳に生息する動植物の実態調査の一つに排泄物を分解することや、国の天然記念物であり生息の条件によっては絶滅の可能性もあるヤマネの巣を所々に設けている話も聞くことができました。

このような事を耳にする度、年々増え続ける絶滅危惧種や生態系のバランス崩壊に改めて危機感を持ちます。



見晴台と牧場

トレッキングも終盤に近付いてきました。

開けた美しい牧場に出て、最後は見晴らし台にて連なる山々の説明を聞きながら皆さんと雄大な景色を楽しみました。



楽しく安全にトレッキングを

8月の祝日「山の日」の制定の後押しもあってか、トレッキングや登山を楽しむ人が増えてきたようです。今回は穏やかなルートではありましたが、山と向かい合うときにはやはり心身ともに準備が必要だと改めて思いました。万全の体調で臨むことはもちろん、服装や履物に気を付けること。そしてもちろん、ごみは絶対に持ち帰ること。山に対し、「楽しませてもらっている」気持ちを持ち続けていきたいと思えます。トレッキングや登山後の身体の労りも大切です。ハヶ岳一带は火山地帯のため、多くの温泉があります。私たちは、帰路につく前にラジウム温泉にて疲れを癒しました。

今年度の視察研修も無事に終わることができました。

参加者の方々、事業委員及び関係者の皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。



「森林探検隊」に参加して

興津川保全市民会議 会員 落合広美

市民会議への参加のきっかけ

「植樹はしたことあるけれど、その後、木はどうなっているのかな?」。子どもの成長と共に環境が気になり、いろいろ体験する中で、森をもっと知りたいと思い始めました。そのような時に、興津川保全市民会議の活動を知り会員になりました。

さあ、吊り橋を渡って出発です

11月下旬の冷え込んだ朝、川からは霧がたちのぼり、茶畑には霜がおりていました。私と一緒に参加した小学生の娘も、いつもと違った風景にワクワクし、探検気分が盛り上がります。さあ、つり橋を渡って森林探検に出発です。

山道では人の手が入っていない竹林の横を通りました。竹と竹とが密集し、地面には太陽の光が届かないため、他の植物がありません。山の断面ではその茶色い地面に広く浅く、竹が根を張っているのがわかります。



探検がスタート

嶺の子山荘で一息ついたら、いよいよ探検本番です。丸太をくぐった先の小川では、絨毯のように苔のむした岩々が待っていました。その、ふかふかの緑色に陽の光が当たり、思わず目を奪われます。その中を、石がぐらつかないか、足場を自分で確認しながら先を進みます。

ドキドキ丸太橋、ハラハラ山道

小川を登りきると、次は丸太橋です。「滑らないか



な?」下を見ると、ちょっと怖い。ロープを握る手にも力が入ります。怖くないふりをしながら、「カニ歩き、カニ歩き」と唱えながら、何とか渡りきりました。

その先の山道は、人が一人通れるような幅。動物ならスイスイ登っていけそうな傾斜を、両手両足で体勢を整えながら進んでいきます。お互い声掛けをしながらも、顔は真剣そのもの。「ここ、道なの?」と思う、ハイキングでは決して通らない道を探検隊は先を目指します。



登りきった先に見えたものは、木々の間から降り注ぐ柔らかな光、様々な植物で覆われた地面。美しい緑の濃淡に包み込まれました。木々が深く根を張り、水分を蓄え、山の息遣いまで聞こえてきそうです。

ロープスライダーと迫力の伐採

さて、子どもたちお待ちかねのロープスライダー。この緑の中を大胆に滑っていきます。順番が待ち遠しい子や、少し緊張している子など様々です。いざ滑り始めると、どの子も満面の笑みで、上手にモモンガに変身していました。そして、滑り終わると、達成感で心なしか自信に満ちて見えました。

木の伐採では、狙った所に木を倒す技術に、ただただ、カッコ良かったです。根元にチェーンソーを入れ、だんだん木の先端が揺れ始めたかと思うと、大きな木がメリメリと音を立ててドーンッと倒れる光景はまさに迫力満点。おおーっという歓声が沸き起こりました。

忘れられないおいしさ

今回の私の一番の楽しみは猪鍋。普段あまり口に



することの無い猪肉は独特の食感で、熱々のスープと共にいただくと、すっかり冷えきった体を温めてくれました。何杯でもおかわりしたくなるおいしさです。

竹馬乗り、弓矢が大人気！

お腹がいっぱいになったら、巨大シーソーや竹工作をしました。竹馬や竹弓矢、青竹踏み、竹の器も作りました。大人に人気だったのは竹馬。夢中になって何人も何人も挑戦しました。乗りこなせたときは、大人もとびっきりの笑顔です。子どもに大人気だったのは竹弓矢。的に向かって、存分に竹矢を飛ばします。的を貫いたときの快感。山だからこそ、のびのび、思いっきり遊べたと思います。



活動をとおして

この森林探検隊の活動を通して、学んだこと感じたことがたくさんあります。

まず、植樹した木は植えっぱなしではなく、下草刈などをして、ちゃんと管理されている事を知りました。そして、道中では、手入れされている所と、そうでは無い所との違いを確認することができました。これにより、間伐材を使うことも、山を守ることに繋がると思いました。

今回楽しみにしていた猪鍋をいただくにあたって、環境に配慮し、娘自らマイ箸・マイ器の持参を提案してきました。それを聞いた時は、嬉しく思いました。これからも繰り返し一緒に考え、「環境保全が当たり前」の意識が定着し、行動できるようになっていってくれたらなと思いました。

また、もし、山でプラスチックゴミが風に飛ばされ、川に流され、海に辿り着いて紫外線により破碎されたら、マイクロプラスチックになってしまうことを聞き、使い捨てのゴミの削減だけでなく、その先にも影響があることを知りました。山も川も海も単独ではなく、全て繋がっています。そして、私たちの生活も。

たとえ小さな事でも、自分たちができることは行動して行きたいと思えます。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



東京から市民会議の活動に参加して

興津川保全市民会議 会員 佐藤あずさ

参加のきっかけは「るくる」

東京在住の私たちが興津川市民会議を知ったのは、たまたま行った静岡科学館るくるの体験イベントでした。木の実を使って何か制作をした際にいただいたチラシで興味を持ちました。植樹体験に竹の子掘りを1日で体験できるなんて、なんて盛りだくさんな企画だろう、と。

そして初めての企画に参加してから、毎回参加申し込みをするまで魅了されました。

私が実感している魅力を書きたいと思います。



心臓やぶりのハードな山道

活動拠点の嶺の子山荘までは40代半ばの私にとってはかなりキツイ山道です。子供はスイスイ登っていきませんが、ところにより傾斜も急で心臓がバクバクします。登り始めはおしゃべりしていても途中から無口になります。つらいです。でもつらいだけではないです。

間伐された美しいヒノキ・杉林、美しく段々畑になっている茶畑

苦しい山道の中でもヒノキ・杉林の中は涼しくて気持ち良いです。たくさんの樹々の中へ木漏れ日がさす景色は最高です。写真におさめたいような景色があたり一面に広がっています。登り坂がひと段落ついたらあとのこの景色は本当に癒されます。

ヒノキと杉の違いについても教えていただきました。それ以来、葉の先を見てはヒノキだ、これは杉だ、と得意げに語る自分がいます。

山道を登り作業をした後のお昼ごはん

達成感と緑に囲まれたロケーションで食べるお昼ごはんは格別のおいしさです。

朝バタバタしながら作ったおにぎりも絶品になります。ペットボトルに入ったお茶も特別においしくなります。

女性会の方々や地元企業の協力

毎回参加するたびに、いつも色々な料理をふるまっています。やきそばやイノシシ鍋（初体験だったけど美味しかった!）、焼き芋、木材ペレットを使った窯焼きピザ、暑い夏には冷たいお茶、寒い季節には温かい紅茶やコーヒー。どれも美味しく、優しい心遣いが伝わってあたたかい気持ちになります。



竹の無限性を感じる制作

3回の企画に参加しましたが、竹を使って竹笛、水鉄砲、弓矢づくりの体験をさせていただきました。竹笛の音が初めて出た時のキラキラした娘の目、水鉄砲でびしょ濡れになるまで対戦し合う夫と娘、的をめがけて竹の弓を射る真剣なまなざしの娘。どのシーンも鮮明に残っています。



樹々に囲まれた中での空中スライダー、杉の大木伐採見学

空中スライダーの場所に行くまでの沢登りがこれまた大冒険でした。子供たちよりも大人のほうが危険満載で、足を滑らせたり、つり橋や丸太渡りは子供以上にドキドキしました。

空中スライダーは距離が長くやや傾斜もありスリリングでした。子供たちが次々と飛び立つさまは格好良かったです。

チェーンソーを使つての杉の伐採は圧巻でした。樹齢50～60年、直径50センチ近くの巨木を切り倒すのに、チェーンソーで一気に切り倒すわけではなく、あらゆる角度からくさびを打ち、確認を繰り返す慎重な作業であることが分かりました。最後に地面に倒れた時の音、地響きは日常では聞くことのない凄さでした。自然のスケールの大きさに畏怖の念を抱きました。

巨大シーソーを楽しむ子供たちの笑顔と笑い声

子供10人近く乗れる巨大シーソーもここならではのです。嬉しそうな子供たちの表情と歓声は、見ていてこちらでも楽しくなります。



東京でも植林体験など参加したことがありますが、ただ下準備された土地に樹を植えて土をかけて終わるといったものでした。

こちらでは、下草刈りまでやらせていただき、その後の成長を見守ることができ、達成感を味わうことができます。人と人とのふれあひがあり、心地よいあたたかさがあります。

私たち夫婦の体力が続く限りは、これからも参加していきたいと思っています。

事業委員、関係者の皆様、このような素敵な企画をありがとうございます。



興津川保全市民会議 静岡市役所 環境創造課 伊藤 晃伸

今年で25回目!

9月7日(土)、残暑厳しい中、興津川保全市民会議の恒例行事となっている「興津川クリーン作戦」が開催されました。

静岡市が誇る興津川の恵まれた水資源を守るため、地域住民、関係団体、企業、学校の皆様と行政が協働して実施しています。平成6年度から継続して実施し、今年で25回目となります。

興津川流域の10箇所を清掃場所とし、午前9時から約1時間程度の清掃活動を行いました。

メイン会場となっている和田島キャンプ適地においても、多くの皆様にご参加いただきました。キャンプやバーベキューでキャンプ適地を両河内中学校前の開会式



各会場で集められたごみ



訪れた方も多く見られましたが、クリーン作戦に参加された方に声を掛け、参加者と一緒にごみを拾い始めてくれた家族の姿がとても印象に残っています。

参加者約900人、回収量750kg

今年度は全体で約900の方にご参加いただき、ごみの回収量は750kgでした。少し昔の記録を見てみると、約20年前の平成10年では、大型家電などの不法投棄物が多く回収され、その回収量はなんと6tにも及びます。私は今年もメイン会場の和田島キャンプ適地に参加しましたが、家電などは見当たらず、河川敷の茂みをかき分けて、ようやくごみを見つけられるほどです。継続してクリーン作戦を実施し、多くのごみを回収したことで、興津川にごみを捨てない、捨てさせない環境が醸成されたのだと強く感じています。

バーベキューのごみを捨てて帰る人も

しかし、他の会場では、バーベキューのごみが捨てられているのが散見されました。水資源保全の取組にゴールはないのかもしれませんが、行政としても美しい清流を守るため、こういった取組を継続していかなければならないと考えさせられました。

最後になりますが、残暑厳しい中、興津川クリーン作戦に参加して下さった多くの皆様に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。豊かな清流を次世代に残すため、今後も環境保全活動にご協力をお願いいたします。

閉会式での挨拶の後に、望月事業委員長から、鮎の生態と鮎の友釣りについて紹介した



総会講演 深海魚「ミズウオ」と海洋ごみ

講師：東海大学海洋科学博物館 自然史博物館学芸員 伊藤芳英先生

興津川保全市民会議 静岡市役所 環境創造課 伊藤 晃伸

令和元年度の総会では、昨今の海洋ごみ問題への関心の高まりもあり、東海大学海洋科学博物館・自然史博物館学芸員である伊藤芳英先生にご講演をお願いしました。「ミズウオ」という深海魚をテーマに海洋ごみ問題について貴重なお話をお聞きしましたので、ご紹介したいと思います。

実感のないマイクロプラスチックごみ

最近ではマイクロプラスチックごみによる海洋汚染がメディアなどでよく取り上げられるようになりましたが、多くの人が自分の周りで起きていることだと実感を持っていないのではないのでしょうか。

深海魚「ミズウオ」の体内から見つかるゴミ

伊藤先生は研究の一つとして、駿河湾に生息するミズウオという深海魚の調査を行っています。ミズウオが三保の海岸に漂着することがあり、その体内を調べてみるとプラスチックなどのごみが入っていることがあるそうです。この調査は50年前から続けており、以前に比べてプラスチックなどのごみが見つかる割合が増加傾向にあるとのことでした。深海で暮らすミズウオの口にごみが入ってしまうということは、海底にごみが溜まっていることを示しています。



海岸の砂に混じるゴミ

また、マイクロプラスチックごみと呼ばれる5mm以下の小さなごみについて、ある実験を交えてお話していただきました。三保の海岸から持ってきた砂をガラスのビンに入れ、水も加えます。これをよくかき混ぜて、少し待つと、

砂の中からプラスチックなどのごみが水面に浮いてくるのです。一見すると、きれいな砂ですが、その中には意外に多くのごみが混じっているのです。2040年頃には海の生き物より海洋ごみの方が多くなるとの調査もあるそうです。



ウミガメがビニール袋を喉に詰まらせて死んでしまったり、海岸に打ち上げられたクジラのお腹から数十kgのごみが出てきたりと、ショッキングなニュースが私達の目を引きまします。しかし、それは遠い海の向こうの問題ではなく、いつも親しんでいるすぐその海で実際に起きていることなのだと思感しました。



できることから始める

伊藤先生から「海洋の自然環境を守るために、自分にできることから始めてほしい」とのお話がありました。私も家庭から出るごみを減らすだけでなく、この問題について周知・啓発を進め、自分にできることに取り組んでいきたいと思えます。

興津川保全市民会議事業委員長 望月誠一郎

静岡県静岡土木事務所による「興津川水系流域委員会」の第2回委員会が開催されました。その委員の1人として私が指名されたことから、令和2年1月31日に静岡土木事務所の会議室において開催され委員会に出席しました。

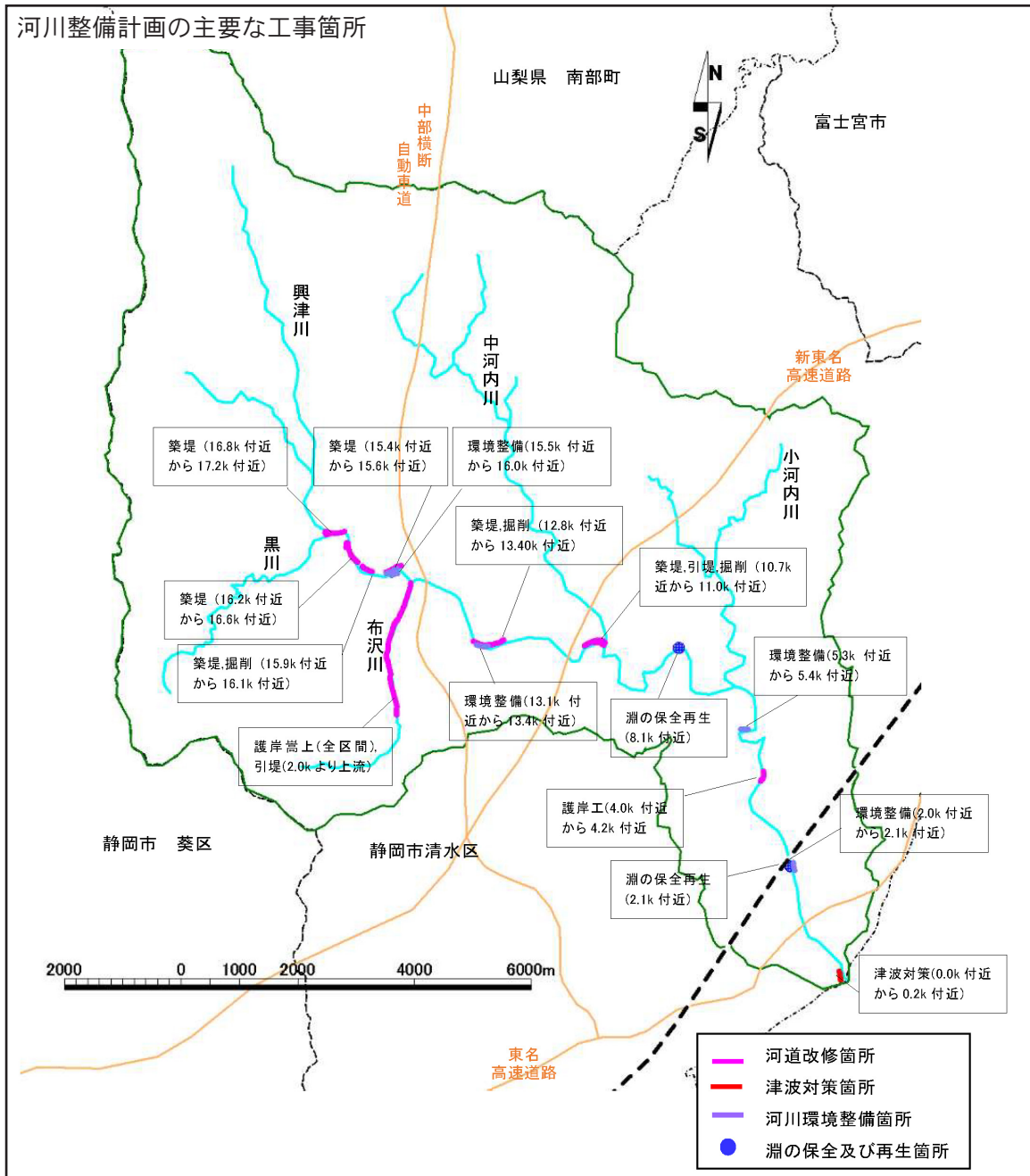
その様子は、3月中旬にインターネット上で「パブリックコメント」として公開され、県民の皆さんからの意見を求めています。

ここでは、その要旨をまとめ皆さんに報告します。

●計画対象期間及び対象地区

本河川整備計画は、興津川水系河川整備基本方針に即した河川整備の当面の目標であり、その対象期間は平成14年（2002年）6月の策定時点より概ね40年間（変更時点より概ね20年）です。

整備対象地区は、次の主要な工事箇所を示す地区で、災害発生防止、河川の適正な利用及び流水機能維持、河川環境の保全と維持のための整備を行うものとしています。



●洪水、高潮等による災害の発生防止 又は軽減に関する目標

興津川及び支川布沢川における整備目標は、年超過確率 1/10 規模の降雨による洪水を家屋浸水を生じさせることなく河道内で流下させることを目指し、溢水・破堤などによる家屋被害の軽減を図ることを目標とします。

さらに、計画規模を上回る洪水や高潮、整備途上段階での施設能力を超える洪水の発生に対しては、情報伝達、水防体制の強化など地域住民や関連機関と連携し、地域防災力の向上に努めます。

●河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

承元寺地点における最近 10 ヶ年の平均濁水流量は約 1.1 m³/s、平均低水流量は約 2.1m³/s と、興津川上中流部は比較的流量が豊かであることから、この状況を保全していきます。しかしながら下流部では、濁水時に既得水利の安定した取水が困難となるなど水量は少ない状態です。このため、水利用の実態調査等により合理的な水利用を促進し、河川の適正な利用と流水の正常な機能の維持に努めます。また、流域での取り組みとして、森林及び農地の保全、節水型の地域づくりなどの働きかけを行います。

●河川環境の整備と保全に関する目標

興津川水系にはアユ、アユカケ、ウツセミカジカ、シロウオ等多様な生物が生息しているため、河川整備に際しては、瀬や淵の再生・保全に努めるとともに、堰、床止め等での魚道の設置を推進し、河川の連続性を確保していきます。河口部は、波浪等により河口が閉塞する可能性があるため、土砂の堆積状況を監視し、関係機関と連携して必要に応じ、対策を行います。

河畔林はその緑陰が水辺の生物の生息にとって重要な環境であることから、地域住民や関連機関との協力のもと保全を働きかけます。

また、豊かな自然を残す興津川を訪れる多くの人々が、安全にそして快適に水辺に親しむことができるよう、自然との触れ合いの場の整備を行います。

望月の意見（要旨）

なお、私も興津川保全市民会議の立場から、次のような趣旨の意見を述べています。

（アユの生息環境の保全、整備について）

・市民会議はアユとヤマセミが生息する河川づくりを目指し活動しているが、特にアユの生息環境が大きく変化しており心配している。

・アユは、我々人類が生まれる何百万年も前から興津川に生育し、清流の興津川と清水湾の沿岸を回遊して成長し、命を繋いできました。

・私たち人間は、そのようなアユの棲む興津川から水を取水し、飲み水や農業用水に活用しています。また、清水湾は、静岡県の経済発展のための港の整備計画により岸壁として利用しています。特に岸壁は、14m という深さで、アユにとっては非常に棲みにくい環境になり、興津川に鮎が戻ってこれないのではないかと思う。

・私たち人間のためのみでなく生物に対する環境にも配慮した整備を進め、いつまでも美しいアユのいる清流の興津川を子孫に残したい。

（冬の河口の瀬切れ対策について）

・市民会議の活動では、山の森林を守り保水力を高めない川の水も守れないということに参加者に常々申し上げている。

・近年、冬の興津川の河口近くの瀬切れが生じているのは森の保水力がないからといわれるが、そうではないと思う。単純計算として清水区民が使う 1 日の水道量の 20 万トンの表流水を中流で取水しているらであり、河口まで取水せずに流したら河口閉塞はなくなると考えられる。

・我々が命の水を興津川からもらって生活していることが河口閉塞の原因だということを知ることが必要です。

・川にいるアユなどが生息しやすい環境を守りつつ、私たちも生きていけるように共存していかなければならない。それをしっかりみんなで考えてほしい。

・我々が生きていくために必要な水道水の取水や港の整備をしつつ、アユが健全に生きていける共生環境をどうしらできるのかを今後の 20 年間の整備計画としていただきたい。

以上、提案の要旨です。

日本では令和2年（2020年）7月1日から、プラスチックごみを減らす狙いで、容器包装リサイクル法の省令改正により、スーパーやコンビニ、ドラッグストアなど、全国の全ての小売業者にプラスチック製買物袋の有料化が義務付けられます。

そのため、持ち運びに便利で使い易いさまざまなエコバッグが研究されています。

その方法の一つとして日本古来の「風呂敷」をエコバッグとして使用するとよいです。サイズは、90～100cm四方の大きめの風呂敷がおすすめで、折り畳めばコンパクトになり、バッグに入れ常に持ち歩けます。スーパーマーケット等で買い物の精算をするときに、買い物かごの中に広げ、レジ担当に商品を入れてもらえば、風呂敷の両端を2度結びそのまま持ち帰れます。また、何度も繰り返し使えます。



**市民会議の活動に協力してくれる方
お試し参加募集中です!**

活動は、この「やませみ通信」に紹介しているような内容です。

竹の子鍋、しし鍋、流しそうめんづくり、山での植林、川の学習や遊びの活動支援、アユ釣りや山仕事が好きの方など、特技のある方、ない方大歓迎です。

興津川保全市民会議の会員になり、「命の水」を守るため、一緒に活動してください。

法人、団体等会員 3,000円 / 年
個人会員 1,000円 / 年

会員へは、「やませみ通信」他、年間を通じて各種イベント、企画の案内を送らせていただきます。
また、清流のうたのCDなども特別価格にて提供します。

発行 興津川保全市民会議
編集 興津川保全市民会議 事業委員会
編集以外 地域デザイン研究所（望月）
発行日 令和2年3月

興津川保全市民会議事務局
（静岡市環境創造課内）
TEL. 054-221-1319
FAX. 054-221-1492
〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1



ホームページもご覧ください <http://www.okitsu-yamasemi.net/>

編集委員からひとこと・・・

令和2年は、中国で発生した新型肺炎が日本を始め世界に広がり、生活や経済に大変な影響が出ています。現段階では、どのように収束するのか見通しがつきません。自ら注意し、早期に収まることを祈るのみです。